「役人の息子をいやす」　　2018年02月23日

ヨハネによる福音書4章43節～54節　二日後、イエスはそこを出発して、ガリラヤへ行かれた。イエスは自ら、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」とはっきり言われたことがある。ガリラヤにお着きになると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。彼らも祭りに行ったので、そのときエルサレムでイエスがなさったことをすべて、見ていたからである。

イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう酒に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子が病気であった。この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやしてくださるように頼んだ。息子が死にかかっていたからである。イエスは役人に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われた。役人は、「主よ、子供が死なないうちに、おいでください」と言った。イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、僕たちは、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と言った。それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。そして、彼もその家族もこぞって信じた。これは、イエスがユダヤからガリラヤに来てなされた、二回目のしるしである。

主イエスはサマリアからガリラヤに戻られた。サマリアに近い、ガリラヤのナザレが、主イエスの故郷であるが、ナザレでは受け入れられず、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」と言われたことがあった。しかし、ガリラヤの人々は、過越祭で主イエスがエルサレムで表された力ある言葉と業を見聞きしていたので、喜び、歓迎した。

主イエスはガリラヤのカナに行かれた。カナは水をブドウ酒に変える奇跡を行った所である。カファルナウムに王の役人がいて、彼の息子が病気で、瀕死の状態だった。彼は、主イエスがカナにおられると聞いて、主イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子を癒してくださるように頼んだ。主イエスは彼に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と、目で見たことしか受け入れない不信仰を指摘された。彼の耳に、主イエスの言葉は痛かっただろう。しかし、「主よ、子供が死なないうちに、おいでください」と必死に懇願した。主イエスは、「帰りなさい。あなたの息子は生きる」と応じられた。

彼は主イエスの言葉しか、信じるものがなく、カファルナウムに帰って行った。帰る途中、僕たちが迎えに来て、息子が生きていることを告げた。息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と答えた。父親は、主イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを知った。彼も家族も喜び、主イエスを信じた。ヨハネ福音書は、主イエスの言葉は真実であると伝えている。キリストの言葉によって「生きる」ことが始まる。キリストを通して神に結びつき、真に生かされるというのが福音である。これをあなたは信じるかと問いかけている奇跡ではないか。主イエスがカナで行われた二回目のしるしであった。